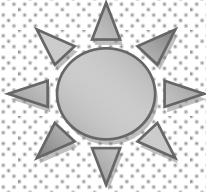
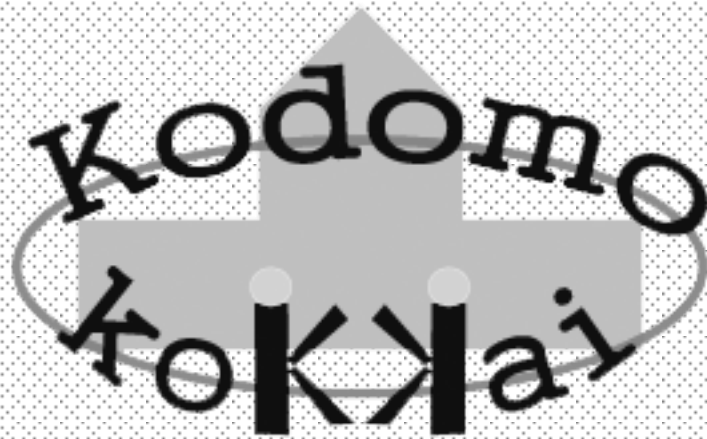
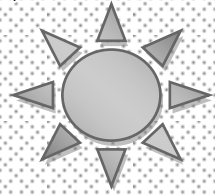


# 第8回子ども国会



## 宣言書



みんなが“豊か”に  
生きていける未来の実現

平成23年8月16日  
子ども議員一同

## 《はじめに》

私達は、「みんなが‘豊か’に生きていける未来の実現」のため、第8回子ども国会を開催しました。全国から集まった子ども達は、二日間、メディアリテラシー、国際、生命倫理、教育と社会、学校生活、貧困、地域交流の7つの分科会に分かれて話し合いました。

分科会は以下の通りです。

【 国際 】
【 生命倫理 】
【 教育と社会 】
【 学校生活 】
【 貧困 】
【 地域交流 】
【 メディアリテラシー 】

私達は、これらのテーマの現状や理想について子どもの視点から話し合い、改善案を考えました。改善案はより明確化する為、「自分たちにできること」と「大人にしてほしいこと」に分けて掲載しました。

## 《第8回子ども国会の目的》

世界では、紛争や貧困により苦しむ人々がたくさんいます。また、日本にも教育問題や環境問題、社会制度など、たくさんの課題があります。このような問題は、国会議員や官僚といった公務員を中心に大人によって議論されることが多いのが現実です。しかし、これらの問題に関係しているのは大人だけでしょうか？この世の中で生活している全ての人々に関係する問題であり、将来を担う私達子どもにとっても、大切な問題です。現在そして未来に対して真剣に考え意見を共有することによって、子どもも大人もともに成長し、みんなが‘豊か’に生きていける未来が実現すると考えます。そのためには、以下が重要だと思い、第8回子ども国会の目的と致しました。

1. とともに未来を気付く他者と出会い、対話することの重要性、意義を実感してもらうこと。
2. 国際社会及び日本国内における課題に関心を持ち、話しあう場を提供すること。
3. 中高生の声を社会に届けること。

# 分科会紹介

## 国際 ～日本×若者×国際社会～

担当：大川瑛里（パピコ）

グローバル化する社会における日本、そして、その日本の将来を担っていく存在である私たち若者は、一体どうあればいいのかを話し合います！自分たち自身と、日本という国。2つの立場から国際社会と向き合ってみましょう！

## 生命倫理 ～生きるとは何か～

担当：平野咲子（さっこ）

日常とは少し遠くてむずかしそうな「脳死、臓器移植、人工妊娠中絶、尊厳死」という4つの生命倫理学のトピックスを扱いながら、とっっても身近な私たちの生命について考えます。

## 教育と社会～真の受験とは？～

担当：新居日南恵（おりひな）

日本の教育制度に疑問を感じたことはありませんか？ゆとり教育が終わり、日本の教育制度は大きな転換期を迎えています。中高生の視点から、今後あるべき教育・受験の姿を考えましょう！

## 学校生活～先生と生徒のコミュニケーション～

担当：野田雅満（みどり）

担任の先生とどのくらい話しますか？HRの時だけ…なんてことは？担任の先生という学校生活の良き相談者が身近にいなくなることは、いじめ発見の遅れ、学力低下といった、さまざまな問題の原因となっています。先生と生徒の真のコミュニケーションはどうすれば実現するのか、一緒に考えましょう！

## 貧困 ～日本の貧困って!?!～

担当：近藤アガサ（クリス）、柴宮史佳（まめしば）

えっ！日本に貧困問題ってあるの??数字だけで見ると、国民の4人に1人が貧困状態の日本。この数字はどこから出てきたんだ??そもそも貧困ってなんだ?普段途上国等の問題として考えられがちな貧困問題。今回貧困の分科会では、貧困問題を日本国内の問題として考えていきます。

## 地域交流 ～よりよいまちづくりのために～

担当：下平千穂（ひらひら）

ご近所づきあいの少ない今。みんなが住みやすいまちづくりのために何をすべきなのでしょう  
か?一緒に考えてみませんか

## メディアリテラシー ～メディアの光と闇～

担当：石丸葵（まるこ）

情報 - それは人が生きていくため、コミュニケーションするために必要なもの。新しいメディアが次々と生まれる現代で、私たちは何を信じ何を『伝える』べきなのか。マスコミからインターネット、Twitter まであらゆるメディアを徹底討論!!私たち子どもにはいったい何ができるのか。

# 国際分科会

参加者:小林季生、加藤聖大、新造真人、塩川翔平、原子奈津美、宮崎理沙

## 《現実》

私達日本国民には、自国である日本に対しての関心がなく、愛国心が育ってないように感じられる。国際的地位も低く、技術力は確かなものを持っているのに、国際経済では力を発揮できていない。また、通じる英語を使う事が出来ない。

## 《理想》

- ・日本の国際的発言力を高める
  - ・日本人であることの自覚・誇りを持つ
  - ・日本の世界に誇れる高い技術を持つ事
  - ・敗戦の傷がいやされている
- 最終目標『常任理事国』になる

## 《改善策》

### ○私達にできること

上記した日本人がもつ問題について関心をもつきっかけづくり

- ・SNSの活用
- ・校内放送の利用
- ・アプリの作成(政治に関心を持ってもらえるような)

### ○大人達にしてほしいこと

文部科学省の方をお願いしたいです

- ・政治は難しい、とつきにくいなどのイメージがあります。また、学校などで政治的発言をはばかれることがあります。ですから、私達の抱えている政治に対するイメージを身近になるようなものにしてほしいです。
- ・歴史の教科書の改訂を求めます。例えば戦争のことについて考えると、一方的に日本が悪いように書かれているので多角的な視点で書かれているものにしてください。
- ・実用的な英語教育を充実させてください。
- ・若者にとって「政治」が日常的なものになるようにメディアを活用してください
- ・政治に関心がもてるようなアプリを作成してください。

# ☆子ども議員の提言

## 文部科学省 鈴木寛 様へ

現在日本では、多くの国民が日本に対して関心を持っておらず、愛国心をもっているとは言えない。また、日本は国際的地位もそれほど高くない。日本は高い技術力をもっているにも関わらず、国際社会においてはこの技術力を十分に発揮しきれていない。外国へ技術をもとに製品を輸出している企業もいるものの、その多くが価格競争で負けている。

このような現状を打開していくためにも、私達子ども議員は次の政策を提言する。

まず1つ目に、教科書の改訂である。私達は現代使用されている教科書は一方的な見方をしていると考えられる。例えば第二次世界大戦の記述であるが、私達は今までの授業で『日本は戦争という誤った行為を行い、結果的に世界を悪い方向へもっていった』という主旨の学習をした。確かにこの事は一見すると事実であるかもしれないが、戦争という行為を行ったのは日本だけではない。私達はこのような教科書に対して戦争の本質を話し合うなどのディスカッション等の項目の追加を求める。このことによって私達子供は戦争に対して、主観的な理解を持つことができる。

2つ目に政治に対して関心をもてるようにするための環境づくりをするということだ。私達は、とっつきにくいイメージの政治をとっつきやすくするために高等教育において「政治経済科目」の履修を必修にすることを提案する。このことによって理系の人たちが中学三年生の公民の授業でしか政治を学ばない、という現状から改善することができると思う。

3つ目に英語教育の充実である。私達は韓国人の学生と英語で話す機会があった。が、その時私達の英会話能力の低さを痛感した。そのため『使える英語』の教育を充実させてほしい。

ここで、これらの政策に期待される効果を述べる。

1つ目の提言についてだが、このことによって現在私達が、『日本人が悪い戦争を起こすという過ちを犯した』という自虐心をなくすことができる。この事によって日本人に『日本人としての自覚と自信』が生まれ、誇りがもてるようになる。このことで日本を良くしようというやる気を持つ人材が出てきて、日本が発展することにつながる。そして最後にこれらによって日本の発言力も上がり、他国への影響力が上がるとともに、日本が世界の中核となることができると私達は考える。このことによつて初めに述べたような問題を解決できるとも考えている。

2つ目の提言に関してだが、これにより、日本の若者の政治意識を高める、と同時に日本がさらに世界の中核となるのに不可欠な国連常任理事国入りへ向けての世論理解が深まり、理事国入りに向けての第一歩となると思う。

3つ目の提言に関してだが、英会話能力を高めることで日本人に自信が付き、1つ目の提言の効果をさらに強めることができると思う。

このように私達子ども議員は日本がこれから飛躍することを強く希望している。至らない点もあるかとは思いますが、是非ご健闘をよろしく願います。

## ☆子ども議員の声

私達は政治に興味を持ってもらうためのアプリの例として、アドベンチャーゲームを考えました。このようなゲームがあれば、皆政治に興味を持ってくれるのではと思います。

[設定]

ひよんな事から政治家の秘書になってしまった主人公。

個性の強い政治家達に囲まれながら、毎日生活を送っていく物語。

[キャラクター]

主人公:偶然政治家の秘書になってしまう。政治に関する知識はほとんどない

HATさん:ツンデレ、何をしてもストレートに物事を言わない

KANさん:実は高校の先輩、少し抜けたところがある

ASOさん:いつも元気で振り回されてしまう。電子辞書を常備。

SZKAさん:気が強いが機械オンチなためメールは全てひらがな

KEDAさん:感情希薄だが、ひよんな事で涙を見せてしまう。

守ってあげたくなる。

EDAさん:がんばりやさん、だが失敗を犯すとへこんで縮こまってしまう。

(感想)

一泊二日でしたが、とても濃密な時間を過ごせたと思います。

中3 加藤聖大

中1なので解らないことも多く、大変でしたが様々な事を学べて良かったです。

中1 宮崎理紗

同年代の人のいろいろな意見を聞くことができ、とても刺激を受けました。今日の経験を生かして問題意識をもってこれから過ごしていきたいです。

高2 原子奈津美

今回は他の皆の意見に触れることで、自分の意見を深めることができました。新たな改革を行うことは労力のいることですが、是非僕たちの提案を実現してください。

高2 塩川翔平

走り出したくなりました。

自分の知らないような事をたくさん知れてよかった。

高2 新造真人

同じ世代の人たちが日本に対してどのようなイメージを持っているか知ることができて良かった！

高1 小林季生

# 生命倫理分科会

参加者名 佐藤寧々 西村正弘 森響平 原シヤ  
大岩尚生 酒向萌美 藤野宏隆

## <現実>

- ・ ドナーカードや臓器提供について、知る機会と考える機会が不足している。
- そのため、ドナーカードの普及率は7.6%と極めて低い数字に留まっている。
- ・ 普及率が低いため、遺族に決定の負担を負わせている。
- ・ 普及率が低いため、ドナーが不足している。
- ・ 「臓器を提供しない」選択肢の認知度が低いため、個人の自由な選択の権利が選びがたい状況が生まれている。
- ・ 「意思表示をしない」という選択肢がドナーカードにない。

## <理想>

- ・ より多くの人々がドナーになるか否かを考え、意思表示をするべき。
- ・ そのためには、より多くの知識を得る機会、考える機会をつくるべき。
- ・ 意思表示に関する選択はどれも平等に認められるべき。どの選択をしても批判されてならない。

## <改善策>

### ①自分たちにできること

- ・ まず自分たちがよく考え、意思表示をする。
- ・ 身の回りの人との議論を興す。

### ②大人にしてほしいこと

- ・ CMなどのメディアを利用して、ドナーカードの存在を周知する。
- ・ 運転免許証や健康保険証の裏側の臓器提供意思表示欄の記載を義務化
- ・ 中等教育、高等教育の過程に臓器提供に関して学ぶ時間を設ける。
- ・ 現行の臓器提供意思表示欄の選択肢に「家族に任せる」「その他」を追加する。



# ☆子ども議員の提言

## 国会議員の皆さまへ

### <政策提言>

現在、日本の脳死後臓器提供をみるに、人々の関心が薄く、また関心を喚起される機会もほとんどないように見受けられます。また臓器提供に関しての知識も少ないことが、これによって臓器提供意思表示カード(通称:ドナーカード)の普及率が7.6%(2006年度、日本臓器移植ネットワーク調べ)と低く留まっていることの原因だと考えられます。これにより慢性的なドナー不足が問題となり、2010年7月に改正臓器移植法が施行されてもなおその状況が続いています。

私たちは、ドナーカードの普及率が上がればこの問題は解決に向かうのではないかと考えます。また同時に、本人の意思表示が無い場合に選択を迫られる脳死患者の家族への負担を減らすこともできます。

一方で私たちは、臓器移植のメリットのみを単純に強調して啓発する、現在の風潮に疑問を抱いています。メリットのみを見て臓器提供の意思を表明することは本来の意味での本人の理解とは異なります。臓器提供に関して興味を持ち、きちんと考えることで自分なりの結論をもつことが必要です。それは意思表示を増やすことにも繋がるでしょう。

また、現在は脳死後「臓器を提供する」「臓器を提供しない」という選択肢が主とされています。しかし、脳死後の臓器提供に関して「意思表示しない」という選択肢を望む人がいるのもまた事実です。こういった人々へもきちんと意思表示する仕組みを作ることが、社会全体の脳死後の臓器移植への理解を推進することに繋がると考えます。

これらをふまえた上で、私たちは以下の提案を行います。

- ・ 学校教育の場に置いてきちんとした理解を深め、一人ひとりの意見をもつことができるための環境を整備する。具体的な案としては、中学校・高等学校においてドナー側・レシピエント側双方からの見方を提示した小冊子や映像資料を用いた授業を実施し、最低限の知識を身につけさせること。この中で生徒それぞれの考えが深まる機会をつくること。
- ・ メディアでの情報提供、意思啓発を行う。テレビコマーシャルによってドナーカードによる意思表示を推進するようなイメージ作りを行う。内容は臓器提供に対する「意思表示」を促進するものにとどめ、臓器提供「する」ことを促進する内容になってはならない。これは臓器提供するか否かを、イメージに流されずにきちんと一人ひとりが考えるようにすることが目的だからである。
- ・ 臓器提供意思表示する機会を増やす。具体的には、健康保険証の裏側への意思表示欄記載を義務化すること、また運転免許証や携帯電話のアプリケーションにも意思表示機能を追加し、意思表示の方法の多様化を図る。
- ・ また、現在の意思表示の選択肢に、加えて「家族に任せる」「その他」を追加し、さまざまな考え方を反映できる新たな意思表示カードづくりを行う。

## ☆子ども議員の声

今回のように、集まって一つのことに着いて話し合う機会を持てたことは非常に有意義であったと思います。

高校2年 佐藤寧々

良い経験になりました。新しい視点から、法解釈が出来そうです。

高校1年 大岩尚生

一つの事について長時間議論をするのは初めてで、とても有意義な時間を過ごせました。

中学3年 森響平

僕は今回、あまりよく知らない事について話したのですが、かなり有意義で楽しい時間を過ごせました。このような事をやっていただきありがとうございます。

高校2年 藤野弘隆

今回の子ども国会では様々な価値観を持った方と意見交換が出来、大変有意義な時間を過ごせました。またみんなで出し合った意見を政策提言としてまとめあげる事に子ども国会固有の意義を感じました。本日はとても楽しかったです。

高校2年 西村正宏

今回は臓器提供という重要な課題を同世代の人と真剣に話し合う事はとても有意義でした。この会議で話した事を自分の周りの人に伝えて行くのが私達の使命だと感じています。

高校3年 原シンヤ

# 教育と社会 分科会

参加者名：佐藤弥々 露木桃子 矢野春佳 藤澤拓未 真辺昂  
森田一成 近藤メリナ 若林桂祐

## <現実>

大学入試の現状は

- ・大学側が楽をしている
- ・自分たちの向上心のきっかけ
- ・柔軟性が低い
- ・入試歴社会・・・入試がゴールのようにになっている
- ・知識の詰め込み
- ・与えられたことばかり

## <理想>

勉強も含めて努力・経験・能力・長所を発信し見てもらおう入試

## <改善策>

### ☆入試

- ・センター試験→基礎学力の確認
- ・今求められている能力を見る
- 実用英語(英語での面接など)/問題解決能力(小論文・エッセーなど)/情報処理能力(PC 技能など)/コミュニケーション能力(グループディスカッションなど)
- ・自己アピール:自分をアピールする(特技・ボランティアなどの社会活動)

### ☆卒業試験

- ・大学卒業時に入学から卒業までに学んだことの学力試験を行う
- 合格者が卒業

# ☆子ども議員の提言

## 文部科学省 へ

### ◆政策提言

#### ・問題点

1. 現在の入試制度は生徒を軽視しすぎている
2. 入試時の学力がすべてとなり、卒業時の学力が大幅に低下してしまう
3. 勉強ばかりを重視しすぎてコミュニケーション能力や自己アピール能力などが身につけていない  
⇒入試とは勉強も含めて努力・経験・能力・長所を発信し見てもらうものであるべきではないだろうか  
⇒そのためには…

#### <理想の入試>

勉強+今求められているもの(英語などのコミュニケーション能力)+自己アピール

1. 勉強>>センター試験
  - ・英語の試験を TOEIC で代用
  - ・基礎学力の確認として利用
  - ・基準点を設け、その点以上ならばどの大学でも出願できる
2. 今求められているもの>>入試
  - ・実用英語(英語での面接、プレゼンなど)
  - ・問題解決能力(小論文、エッセーなど)
  - ・情報処理能力(PC 技能など)
  - ・コミュニケーション能力(グループディスカッションなど)
3. 自己アピール>>特技やボランティア活動などの社会活動をしたことの PR  
+調査書:高校での活動の評価

### ◆今、自分ができること

制度以前に個人が現状の自分や社会に求められることを知って自分の意識が変わり、行動を起こすことが大切。多くの人が意識を持つことでこの制度が受け入れられやすくなる。多くの人が意識を持つために自ら発信したり伝えたりすることでともに分かち合うこともできる。

その行動によって高められる能力は先の制度で測ろうとした能力であり

1. 問題解決
2. 情報処理
3. 英語
4. コミュニケーション

である。これを高める行動の具体例として留学をしたり、新聞を読んで自分なりに考えたりすることに加え、子ども国会という場もこれらの能力を高める役割を果たしている。参加することにより自分

の考えを持ったり他人の意見を聞いて意見を深めたりすることで、コミュニケーション能力や問題解決能力、情報処理能力を養うことが出来る。この場で得たものを行動し、発信する手段として外国人に話しかける機会が出来ることをなどがあげられる。というのも、この機会を通して外国語を使えるようになりたいという意欲がわいたためである。

◆大人にしてほしいこと

子供の意見に耳を傾け、制度を整えることを推し進めてほしい

◆実施時期

8年後。

中学生の上がった時にこの制度ができていけばうまく対応でき、大学までの6年間で有効に使えるから、6年間は必要である。また、制度を公に発表するまでの準備期間としての2年が必要である。

◆期待される効果

今、社会で求められているコミュニケーション能力や自己アピール能力を身に付けられるため、大学卒業生は社会で活躍できる。結果、教育水準が上がることによって国益につながる。

## ☆子ども議員の声

・私は今年、中学三年生で「受験」というものに深くかかわっています。そして今回、入試制度について皆さんと沢山話し合いました。私たちの意見が少しでも反映されればうれしいです。

中3 露木桃子

・私は今回で子ども国会には2回目の参加ですが、2回とも今まで気づかなかったことに気づくことが出来ました。また、今回は「受験」に対する自分の意識・考え方を分科会のメンバーに積極的に発信させていくことが出来ました。そして、メンバーひとりひとりの意見に耳を傾け話し合うことが出来たと思います。大変有意義な時間を過ごせてよかったです。

中3 矢野春佳

・この分科会には「受験」に対して様々な立場の中高生が集まりました。だからいろいろな自分の思いつかないような意見が出てきてとても興味深く有意義な時間が過ごせてよかったです。

高2 森田一成

・自分は付属校に入って、もう受験をすることがない身分ですが、これから受験を控えてる者などから今の心境などを聞き、当時の受験におびえていたころを思い出すことが出来て懐かしく感じました。とりあえず、現行の入試制度には問題があり、改善の余地があると改めて考えさせられました。「入」よりも「出」を優先すべきです。

高2 若林佳祐

・同年代が多く楽しい討論が出来ました。都会の入試への意識の高さに驚きました。近い未来今回出た入試方法が取り入れられれば素敵な日本になるんだろうなと感じました。ありがとうございました。

高2 近藤メリナ

・今回の子ども国会に参加させていただき大変有意義に過ごすことが出来ました。今回「将来に求められる力」について考えた時、この子ども国会自体がその求められる力を養っているという結論に至り、改めてこの会合の有効性を感じました。このような機会に交わることが出来て非常に嬉しく思います。

高3 真辺昂

・子ども国会という様々な人たちと討論することで自分の考え方に変化があったと思う。(あったと思いたい) 来年も参加できたらしたいと思う。

中2 藤澤拓未

・いろいろな立場の人と話せて、意見交流できてよかったです。普段出せない自分の意見とかも言えていい機会になりました。

中3 佐藤弥々

# 学校生活 分科会

参加者名 鈴木壘加 西村直人 近藤レオナ 及川和彦 佐藤麻美 國分照太

## 問題点

☆生徒と教員のコミュニケーションが不十

○信頼関係がない ○いじめに気付かない ○情報が錯綜  
などの問題につながる

## 理想

○生徒主体的 ○程よい関係

### 生徒理想

- 先生をサポート
- 目標を持つこと
- 友人同士の向上
- 行動への責任
- 先生と向き合う

### 教員理想

- 生徒をよく知る
- 生徒を理解する
- 生徒を考える
- 動き出すきっかけを与える

## 生徒改善案

- 生徒から先生へ意見を提出
- 生徒同士の討論の場を作る
- 責任を与える
- 学校の外で活動する機会を作る

## 教員改善案

- 教員の負担を減らす
- よい先生を採用する
- 基本姿勢の共有
- 生徒とかかわる意欲を見る

## ☆子ども議員の提言

### 文部科学省の皆様へ

◆教員と生徒のコミュニケーション不足から信頼関係を築き上げることができないなど、様々な問題が生じている。

◆生徒と教員の信頼関係の上で必要なときにはしっかりと指摘をしつつ、基本的には生徒が主体的に行動するうえでの相談役・支え役としてあるべきという考え方

◆その実現の為に、教員は生徒とのよりよいコミュニケーションを図り、常に生徒に為に何をすべきかを考え努力し続ける高い意識を持っているべきではないか

◆意識の高い教員を採用。育成するために、教員採用試験及び採用後の対応において、下記のような生徒の積極的にかかわろうとする意欲の審査に、より重点を置いた新制度を採用すべきではないか。

#### ☆採用試験内容案

従来のものに加え 筆記試験において

問「生徒が〇〇〇な状況に陥ったらあなたはどのように対応しますか」

→答案を生徒に見せて意見を聞く

→採用

#### 面接試験において

1.筆記試験の解答に対する生徒の意見を伝え、それも踏まえてさらにどう対応できるか面接官の指摘に対しても同様に。

2.あなたは生徒の為に何が必要であなたには何ができると考えていますか  
面接官が追及を繰り返して生徒とかかわろうという意識思想の深さを問う。

#### ◆採用後

1 年間は研修を強化する

1 年または 2 年の教科の授業や部活を通して年長者の指摘を受けながら勤務。

現在担任がしている事務雑務をできるかぎりの範囲で受け持つ。

→教員の多忙の改善にもつながる。

指導技術や一教員として生徒と同かかわろうとしているか見られる。

◆現役教師の意識向上の為に以下のことを提案する。

・研修会の強化、

「自分に対する評価と向き合う時間を増やす」→

アンケートなど教師同士生徒から意見を出す場を設ける。

年度初めに長期目標を立て、定期的に振り返り自己評価を新たな短期目標を公表し見合う



◆教育育成の体制が確立され、教員の意識やコミュニケーション能力が向上すれば、教育現場において、活発なコミュニケーションにつながり、今生じている問題の解決や生徒間、生徒教員間の討論を通じて問題解決さらには新たなことへの挑戦が可能になる。

## ☆子ども議員の声

<p>中高 6 年間学校生活を送ってきて正直先生と生徒のあり方を考えたことはなかったのですが、ほかの学生と議論した内容はとても重く、これからの社会でより注目されるべきことだと感じました、濃厚な話し合いはよい機会、経験となりました。</p> <p style="text-align: right;">佐藤麻美</p>	<p>自分自身が今現在置かれている教育現場の問題について本気で議論することにより、自分が見えていなかった諸問題に気付かされて、新鮮な意見や考えを持つことができました。ここだけの活動に収まらず、違った場所でもアクションを起こしたいと強く願うと同時により多くの生徒が同じように教育問題に目を向けて活動できる仲間ができたことを心の底から嬉しく思います。</p> <p style="text-align: right;">國分照太</p>
<p>はじめて考えたことだったので自分の意見がすぐに出てこなくてほとんど聞くことしかできなかつたけれど、みなさんの意見はとても深くて勉強になりました。次に来る時までには自分の意見を主張できるようにして期待と思いました</p> <p style="text-align: right;">近藤レオナ</p>	<p>将来教師を志しているので、今回話し合った議論というのは、とても自分にとって意味あるものとなりましたし今まで思い描いていた考えというものを変えさせられるような話でしたのですごく成長できました!!</p> <p>みなさんがする発言からは私もびっくりするような意見・提案が多々あり、とても驚かされました。そしてそのような意見からまた新たな考え…というように話し合っていくことができたので、そういう意味でもとても活発な議論ができましたし、みなさんがいたからこそあれほどまでに素晴らしい議論を行うことができたのではないかと思います。</p> <p>みなさんどうもありがとうございました!!</p> <p>是非今回の議論は自らの生活に生かしていきたいなと思います。</p> <p style="text-align: right;">鈴木累加</p>
<p>初めて参加したのであまりはっきりと発言できなかったが、今まで深く考えることのなかったものが考えることができずごく良かったです。自分だけの考えにとらわれないようになるいい機会だと思いました</p> <p style="text-align: right;">桜井敦</p>	
<p>中高と通っている自由学園は生徒主体の学校で教師とのコミュニケーションも割と活発な方だと感じていましたが、今回多くの学校の普段の様子を知ったり、改めて生徒と教師の関係を考えたり長時間討論を行ってさらに文書にまとめることは貴重な体験でした。またこのような会に参加していきたい。</p>	

# 貧困分科会

参加者名 會木千裕 小林真 高野雄太 高橋和樹 高橋優 深谷朋宏

私たちは貧困な状態を以下の二つに定義づけ、現状を踏まえたうえで、理想を挙げ、それぞれを解決するプランを考えました。

- 1、生命の維持に関わるレベルの貧困
- 2、未来への投資や、生活を向上させる余裕のない貧困

プランA→1、の状態の貧困を解決するプラン

プランB→2、の状態の貧困を解決するプラン

プランC→1、2、の状態の貧困を解決するプラン

## 【プランA】

### 児童を預かる施設の増加と、新しい施設の使い方の開発

(現状)親が子どもを養うための十分な収入を確保できていない

↓

最低限度の生活を送れていない子どもがいる

命の危険にさらされる子どもがいる

子どもの人生が、物質的にも、精神的にも貧しいものになっている

(理想)親が仕事をしている間に子どもを預かってくれる施設が充実している

親自身が生活を立て直すまでの間、子どもを長期的に預かってくれるサービスがある

## 【プランB】

### 社会保障を現物支給にする、制度の改正

(現状)現金支給の社会保障制度がある

↓

現金支給の場合、その用途を制限できないため、本来の目的に

沿って利用されているのかわからない

(理想)現物支給

金ではなくモノ、サービスによる社会保障

→小中高校の完全無償化

### 【プランC】

#### 奨学金が必要な学生を企業が支援していく制度 高校生へのインターン制度

(現状)就職活動により、大学での学びの場が犠牲になっている

↓

将来に不安を抱えたまま学生生活を送っている

将来に希望がもてない

(理想)学生、企業のどちらにも利益がある仕組みがある

→生徒:企業から奨学金を受ける

企業:優秀な人材の育成・確保

### 【プランA, Bの財源について】

- ・現金支給による社会保障の廃止
- ・二段階制消費税の導入
  - 宝飾品、嗜好品などへの高税率の導入

## ☆子ども議員の提言

### 厚生労働省へ

児童を預かる施設の増加と、新しい施設の使い方の開発

- ・預かる施設として、幼稚園、保育園、託児所などの増加
- ・施設の概要
  - 完全無料化
  - 長期的に預けられる

### 文部科学省へ

社会保障を現物支給にする制度の改正

- ・小中高校の完全無償化
  - 給食費、修学旅行費、教材費など

### 企業へ

奨学金が必要な学生を企業が支援していく制度

- ・将来性のある学生をインターンで受け入れる
- ・優秀な学生に無利子で奨学金を貸す
  - 学生の卒業後優先的に自分の企業に学生を入れることができる
  - 学生の能力などが企業の理想を満たさない場合、利子付きの奨学金になる

## ☆子ども議員の声

色々な社会問題を考えたとき貧困はいつも頭に浮かんできました。その問題を同年代と様々な角度から分析し、自分とは全く異なる意見に、感動や同感、時にはショックを受けるものもあるほど刺激的な討論でした。初めての本会参加でしたが、持ち帰れるものが多くある分科会でした。

高3 會木千裕

自分たちの討論の結論でよく出てきたものが、「国に任せるとどうせやってくれないから、出来るだけ企業にやらせよう」というものでした。高校生たちの話し合いでこんな結論が出てしまう現状でいいのですか？いいと思っているのなら、俺たちは国に頼りたいとは思いません。企業に頼っていきます。改善したいと思っているなら、既得権を維持するよりも、国民を素直に助けていくことのほうが結果的にみるとメリットが多いということを理解してください。今のままでは私たちは国を頼れません。もっとしっかりしてください。

高2 高橋優

最初は、貧困問題はアフリカなどの世界での問題だと思っていたけど、日本にも子どもの貧困などがたくさんあり、解決するのは難しいと分かりました。でも、少しでも貧困の子どもたちに役立つのかなと思いました。

小5 高橋和樹

今、日本で起こっている貧困は水面下では深刻なものであり、それはこのような討論会を契機として、広めていかなければならないと実感しました。

高3 深谷朋宏

どのような人たちが貧困な人たちなのかと考えるための線引きをすること、どのような策が究極の解決策なのかを見つけるのが大変でした。限られた時間でしたが、出来る限りの案を練りだすことが出来たと思います。

高1 高野雄太

高校生だけでなく、大学生や大人の意見を聞くことで、より一層理解が深まったと思います。自分たちにもまだまだできることがあると発見することが出来ました。

高3 小林真

# 地域交流 分科会

参加者：伊東紗英子、遊佐伸太郎、太田士恭、和田恵

## <現実には起きている問題>

- 地元の人同士でさえも挨拶をしない(→あるいは無視する)
- 地域の行事に積極的に参加しない  
→その結果、近所に誰が住んでいるか知らない
- 老若男女が集まることのできる機会やイベントが少ない  
→そのため例え参加しても新参加者として受け入れられない

## <理想の地域交流>

**定義** 私たちは、お互いを知り合う機会が少ないため、きっかけを作ることが必要だと思  
い、その根本を「地域行事に参加すること」だと考えた

### 具体策

- ①地域行事に参加する
- ②お互いを知り「顔見知り」になる
- ③挨拶をする仲になる
- ④発達してご近所づきあいが深くなる  
例：●子育てを頼む仲になる  
●地震や犯罪防止など緊急時のために助け合える。  
●進路のことなどを相談する学年が少し上の人など世間の輪が広がる
- ⑤具体的には犯罪の少ない町になる。抽象的にはお互いに信頼関係ができあがる、  
みんなが笑顔のあたたかい町へとなる。  
人と話すことによって、コミュニケーション力が上がる。  
など結果的になる。

## <改善策>

### ② 自分たちができること

- 挨拶する（地元付近の人の場合）
- イベントのPR活動など、近隣の人との付き合いを心がける
- 周囲の人(近所の方)について積極的に知る
- 自分から話しかける努力をする
- 地域の行事に参加する

### 具体案

行事を企画、運営する側の立場になる  
例：祭・町内スポーツ大会など

### ① 大人にしてほしいこと

- 挨拶する（地元付近の人の場合）
- イベントのPR活動をするなど、近隣の人との付き合いを心がける
- 周囲の人(近所の方)について積極的に知る
- 自分から話しかける努力をする
- 地域の行事に参加する

### 具体案

行事を企画・運営する側には今まで通り、携  
わってもらい、中高生の企画するものへ企  
業(地元にある)・商店街にも協力してもらう

共通部分

# ☆子ども議員の提言

## <私たちの政策提言>

- 問題点**
- 地元の付近の人同士でさえも挨拶をしない(→あるいは無視する)
  - 地域の行事に積極的に参加しない
    - そのため近所付き合いが希薄である。
  - 老若男女が集まることのできる機会やイベントが少ない
    - 参加しても内輪だけで盛り上がっている。

**原因** 近所の人たちがお互いを知り合う機会が無いからと考える

**提案** 本来地域とは、日頃から沢山の交流があり、お互いを助け合う“絆”の強いコミュニティーの場だと考える。そのためには、地域の行事の企画・運営に若い中高生の新たな意見が必要であると考えられる。そこで今まで通り大人たちにも携わってもらい企業(地元にいる人たち)・商店街の協力を得て、理想の地域に近付けようと具体的な企画を制作した。1年間の企画とそれによる効果を挙げてみようと思う。

## <1年間の流れ>

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
企画	花見	町ぐるみ 鬼ごっこ	清掃 活動		祭		ハロウィン		餅つき			スポーツ 大会
運営者 (中心)	町内	町内	PTA		中高生		町内		町内			中高生



<行事の具体的な中身と効果>

	企画	具体策	効果
4月	花見	マンション内で 呼びかける	子どもからお年寄りまで お話を通して 人々の友好関係を深める
5月	町ぐるみ 鬼ごっこ	町内で1区画を決め 宝探しをしながら 鬼ごっこをする	競い合うことで、 参加者同士の 連帯感が生まれる
6月	清掃活動	希望参加制にし、 色々な人が 参加できるようにする	子どもたちは自分とは 異なる学校の人と 友だちになる
8月	祭	花火・盆踊り・スイカ割り・ 七夕・浴衣の着付け・ ステージ発表などを 中高生を中心に企画する	地域ぐるみで やることよって、 一体感が得られる
10月	ハロウィン	町内の案内ツアーを 企画する	地域の子供たちと 商店を結びつける
1月	餅つき	小学校の敷地内などで 開き、地域の人々を呼ぶ	PTAの方々、 地域の方々、 子どもたちの絆を深める
3月	スポーツ大会	リレー・借り物競走・ 綱引き・休憩所を設ける 手料理、チア、ブラバン などの発表をして盛り上げ る	チームの一体感が 高まることよって 地域全体の団結力を 上げる

## ☆子ども議員の声

私たちは10時間にもわたる討論の末、一つの宣言書を作りあげた。

この10時間はとても密度の濃い10時間だった。

初対面の人々と共に一つの目標に向かって議論を重ねていくのは、とても困難であったが、と同時にとてもワクワクした。

遊佐 伸太郎

今回子ども国会の地域交流に参加したのは、後輩からの紹介がきっかけでした。

3月11日の大地震の後から「地域交流」というテーマについて真剣に考えるようになりました。また、近所の人々との付き合いの大切さも学びました。

この「子ども国会」で得た経験をこれから生かしたいと思います。

ありがとうございました。

伊東 紗英子

子ども国会初参加でしたが、とても楽しかったです。

今までじっくりと1つの問題について同世代の人たちと話したのは初めてでとても良い経験になりました。

時間を気にしなくていい、というのは私にとって新鮮で、納得いくまで皆で宣言書を作れたと思います。

ありがとうございました。

和田 恵

子ども国会に参加するのは今回が初めてでしたが、とても充実した時間を過ごせました。長時間の議論をしたり、宣言書をまとめるのに四苦八苦したりと、今回参加しなければ今の自分の年齢では体験することが出来ないようなことが出来て、とても良かったです。お疲れ様でした。

太田 士恭

# メディアリテラシー分科会

参加者名：鎌田将晴、島田哲治、松島佳奈、増田絢香、高橋優輔

## 《現実》

私達は、身近なメディアの例として情報発信が双方向的な媒体のインターネットと一方的なテレビに着目して考えた。

### ① インターネット

現在インターネット上では、Twitter, mixi, facebook といった SNS サイトがあり、多くの人が利用している。しかし、インターネットはプライベートとパブリックスペースが分けられていないので、個人情報の漏出(名前、画像、現在地)といった問題が起きている

### ② テレビ

テレビは見る機会が多く、私達にとって最も身近なメディアであるが、海外のニュースが流れていない、(特に非常時に)テレビ局間の連携が取れていない、見る側がそのまま信じ込んでしまう、スポンサーがついており、視聴率重視で情報や内容が偏っているなどの問題がある、

## 《理想》

### ① インターネット

ネット上が「パブリックスペース」であることや、人それぞれの使い方があることをユーザーが理解して利用する。そして、自分に合ったインターネットの使い方を見つける。

### ② テレビ

視聴者は一方的な情報でも適切に受け取れる体制にし、テレビ局は情報を正しく偏りなく伝えるように心掛ける

## <改善策>

### ①インターネット

理想に近づくために、それぞれが次のような努力をしていくべきである。

- ・国 違法な投稿に対し罰則や規制を設ける
- ・メディア 情報発信前に警告などを表示しワンクッションを設ける  
情報発信の危険性をCMやドラマなどで呼びかける
- ・学校・企業 SNSの使い方についての授業・研修を行う(資格を作るなど)
- ・市民 市民参加型の第三者機関を設け、投稿をチェックする

### ②テレビ

視聴者側のすべきこと

- ・新聞やインターネットといった様々なメディアとの比較
- ・TV局間での比較
- ・テレビに依存せず情報をうのみにしない

大人にしてほしいこと

- テレビ局を監視する民営の第三者機関を作る
  - ・裁判員制度のような仕組み、市民参加型
  - ・視聴率にとらわれず番組の質について日ごろからテレビ局を評価する  
→視聴率重視ではなく、テレビの質が上がる

テレビ局側にしてほしいこと

テレビ局間で連携をとる

- ・同じ時間帯に同じジャンルを流さないように交替で時間をずらす→視聴者の選択肢を広げるため

- ・海外のテレビ局と連携し海外のニュースを多く流すようにする

非常事態(ex.大震災やテロ)の場合の対応

- 1)民放をすべて止めて国営放送を全ての国民に無料で放送する  
→取材活動が被災者生活や救助活動の妨げにならず、情報が錯綜しないようにするため
- 2)第三者機関の日ごろの評価に基づき放送再開の時期を定めて順次再開する
- 3)(落ち着いてきたら)安否情報などの内容を同じ時間帯にかぶらせないように民放各社で連携をとる

# ☆子ども議員の提言

## 総務省の方へ

### 政策提言

現在、視聴率重視の番組作成により、各局で競争が激化しテレビ局間の連携が取れていない。それにより、同ジャンルの番組を同じ時間帯に放送し、視聴者のニーズにこたえられていない。また、非常時には、情報が錯綜し、視聴者は正しい理解ができない。したがって、連携を取るべきだ。また、テレビ界全体が質を上げていく必要がある。

そのための解決策の一つとして、監査機関を設けることを考えた。これは、視聴率にとらわれることなく番組の質に関して日ごろからテレビ局を評価する機関である。評価する人は国が成人の国民から無作為に選び出す(裁判員制度のイメージ)

国には、総務省主導で監査機関を作ってほしい。

### 監査機関・・・次回開催の国会にて提出希望

→十分な議論をしたうえで約5年かけて監査機関を設立

テレビ局間の連携・・・非常時のマニュアルに関しては即時制定

普段の連携に関してはテレビ局間などでの(利益などの細かい部分を含めた)話し合いを踏まえ10年以内での実現

### 期待される効果

視聴率重視ではなく、テレビの質が上がる

視聴者としてはテレビに対する関心が高まるので、見方の問題の改善につながる

## ☆子ども議員の声

今回の議論の中で特に印象に残っているのは「理想のTV」です。現在のメディアの問題は視聴者側の民度が問われているという問題があります。これからインターネットがそういった若い層の民度をカバーする時代へと移行していく中で、TVが必要なメディアツールとしてインターネットと共存するには、やはり質の高い番組が幅広い年齢層を網羅した番組を作らなければならないと思います。

鎌田 将晴

今回、子ども国会に参加しました。私は以前から興味があったメディアリテラシーの分科会に参加し、自分で考えていなかったメディアの問題点に対する具体的な対策をみんなで討論することができました。今回はSNSを中心に議論しネットの利用方法、マナー、モラルなど近年のメディアの問題について深く話し合えて、今後の自分のネット利用についてもとても参考になりました。この2日間は今後の自分にとっても影響のある有意義な時間を過ごせたと思います。

島田 哲治

震災後、メディアに関して考える体験が増え、わだかまりが高まってきた中で飛びついたのが今回の分科会でしたが、メディアの形態からメディアに対する意識の多様性まで想像以上の広範な議論ができ、大いに意を強くしました。いかに今回の過程を自分の中に取り入れて考えを深め、世界を広めていくのかが自分たちの課題ではないかと思っています。

高橋 優輔

私は今回メディアリテラシーについて考えてみて、SNSは自分も普段から使っているので身近な問題について考えることができ良かったです。便利だけど使い方を間違えると怖いというのは漠然と知っていたけれど、なぜ怖いのか、防ぐにはどうしたらいいのかということを知ることができました。

増田 絢香

私達は普段、あまり気にすることなくメディアに触れていますが、改めて使い方や見方を考えることで、違う視点から「メディア」というものを見ることができました。新聞やテレビ、ネットなど全ての媒体にそれぞれのニーズがあり、問題点や利点もたくさんあがり、リテラシについて一深く考えることのできた子ども国会でした。

松島 佳奈

## 《おわりに》

以上が、子ども議員による将来への希望の声です。現実の問題を理解し、自分たちに何ができるのか真剣に話し合い出した結果をふまえ、力を合わせて活動していきます。また、この宣言書を読んでくださったあなたが私達の意見に賛同し、活動していただけることを願います。

私達は、大人たちとも協力し活動していくことを誓います。この宣言書を手にとってくださった大人の皆さんに私達の思いが通じ、一緒に様々な問題に取り組んでくださること願っています。

子どもから大人まで全ての人々がともに協力し、日本の貧困問題やグローバル化の問題から身近な教育問題まで、多くの課題を解決する社会をつくるため、自分にできることから積極的に活動していきましょう。

子どもの意見が社会に反映されることを願って。

平成23年8月16日 第8回子ども議員一同



**子ども国会実行委員会**